

令和3年度 共同利用・共同研究拠点関係施策

現状・課題

研究環境の劣化等に伴う基礎科学力の伸び悩み。優れた若手研究者が安定かつ自立して研究できる環境の創出

- 大学の枠を越えて知を結集し、**学術研究を効率的・効果的に推進する「共同利用・共同研究体制」を最大限活用**
- **研究資源の共同利用や研究者の交流（共同研究）を活性化**するとともに、**国内外の優れた研究者を惹き付ける研究環境を構築し、研究成果を最大化**

共同利用・共同研究拠点の強化等

令和3年度予算額 **69億円**
(前年度予算額 69億円)

〔 国立大学法人運営費交付金 69億円 〕

- ✓ **コロナ禍に対応する国内外のネットワーク構築等、共同利用・共同研究拠点の強化に資する取組を支援**

各分野を牽引する共同研究プロジェクト等の推進

- ・ 文部科学大臣が認定した共同利用・共同研究拠点における拠点活動の推進
- ・ 拠点機能を向上させ、研究の卓越性を有する取組の強化
- ・ 将来的に共同利用・共同研究拠点を目指す研究所等における卓越した研究活動の充実

我が国の研究力の向上に貢献(国内外の研究者約3万人が参加)

共同利用・共同研究拠点における
学外研究者受入状況【令和元年度】
(延べ数)



受入人数に占める
若手研究者・大学院生の割合
(延べ数)

受入人数	若手研究者 (40歳未満)	大学院生
31,430人	7,789人 24.8%	7,305人 23.2%

最先端研究設備の整備

令和3年度予算額 **3億円**
(前年度予算額 15億円)
令和2年度第3次補正予算額 2億円

最先端の研究を通じた我が国の研究力向上への貢献や、学術的・社会的要請の強い研究課題への取組に向けた研究環境の整備

世界の学術フロンティアを先導する大規模プロジェクトの推進

- ✓ 大規模学術フロンティア促進事業等（14事業）を、**年次計画に基づき着実に推進**
- ✓ コロナ禍における研究・教育のDXを支える「SINET」の高度化など、**最先端の学術研究基盤を整備**
- ✓ イノベーションによる生産性向上に資する**研究インフラ等の整備を推進し、計画を加速**

ハイパーカミオカンデ計画の推進

〔東京大学宇宙線研究所、高エネルギー加速器研究機構〕

- 日本が切り拓いてきた**ニュートリノ研究の次世代計画**
- **大型検出器の建設及びJ-PARCのビーム高度化**により、**ニュートリノの検出性能を著しく向上**

- ➔ **令和9年度からの観測を目指し、大型検出器建設のための空洞掘削や、J-PARCのビーム性能向上等年次計画に基づく計画を推進**



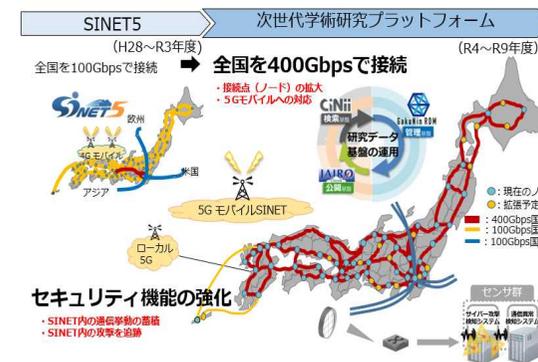
新しいステージに向けた学術情報ネットワーク（SINET）強化

〔情報・システム研究機構国立情報学研究所〕

- 全国900以上の大学や研究機関、約300万人の研究者・学生が活用する**我が国の教育研究活動に必須の学術情報基盤**

- ➔ **コロナ禍においても研究・教育のDXを支える基盤となる「次世代学術研究プラットフォーム」への移行を促進**

- ✓ **ネットワーク基盤の高度化**
(全国を100→400Gbps化、接続点(ノード)の拡大)
- ✓ **大学等におけるセキュリティ体制の強化**



共同利用・共同研究体制を牽引する附置研究所・研究センターの強化・充実

共同利用・共同研究拠点の強化等

令和3年度予算額

6,904百万円 (6,915百万円)

前年度予算額

※国立大学法人運営費交付金

○共同利用・共同研究拠点の強化

令和3年度予算額 6,150百万円 (6,183百万円)

<拠点活動基盤経費（認定経費）>

- ✓ 共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点の基盤的な研究活動を推進。

（経費区分）

【運営費】(a)運営委員会経費 (b)共同研究費 (c)共同研究旅費
【人件費】(d)共同利用・共同研究拠点における国際化や異分野融合・新分野創成、ネットワーク形成など共同利用・共同研究体制の機能向上・活性化に向けた業務に対する職員等の雇用経費

<共同利用・共同研究拠点の機能強化（プロジェクト経費）>

- ✓ 共同利用・共同研究拠点において、研究の卓越性を有すること、共同利用・共同研究機能を向上させる仕組みを有すること、及び組織や人材の流動性を高める内容となっていることを前提として、大学全体の機能強化に資するとともに、我が国における研究のモデルとなる取組を推進。

○新たな共同利用・共同研究体制の充実

令和3年度予算額

754百万円 (732百万円)

- ✓ 将来の共同利用・共同研究拠点を目指し、先端的かつ特色ある研究を推進する研究所等の形成・強化に資する取組や、全国的な観点でモデルとなる研究システムの構築を前提として、附置研究所・研究センターが推進する取組を、重点的に支援。

最先端研究設備の整備

令和3年度予算額

300百万円 (1,496百万円)

前年度予算額

※国立大学法人先端研究等施設整備費補助金

【令和2年度第3次補正予算額 185百万円】

- ✓ 最先端の研究を通じた我が国の研究力向上への貢献や、緊急性のある社会的要請等に対応し課題解決に貢献することが期待される取組を推進するための研究環境を整備。